

# MCSV Creation Forum

## 個人投資家セミナー

2023年12月18日

代表取締役 社長 中西 勝也

## 免責事項

- 本資料にて開示されているデータ、将来予測、戦略、見通し及びその他の歴史的事実でないものは、将来に関する見通しであり、本資料の発表日現在の判断や入手可能な見積、予想、期待に基づいています。これらは、様々な不確実性が内在しており、実際の業績は経営環境の変動などにより、これらの見通しと大きく異なる可能性があります。
- 本情報は、今後予告なしに変更されることがあります。情報、及び資料の利用は、他の方法により入手された情報と共に照合確認し、利用者の判断によって行って下さいようお願い致します。
- 本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

# 自己紹介



代表取締役 社長  
中西 勝也

1985年4月	三菱商事（株）入社
2016年4月	執行役員 中東・中央アジア統括
2018年4月	執行役員 新エネルギー・電力事業本部長
2019年4月	常務執行役員 電カソリューショングループCEO
2020年4月	常務執行役員 電カソリューショングループCEO、 電カ・リテイルDX タスクフォースリーダー
2021年10月	常務執行役員 電カソリューショングループCEO、 電カ・リテイルDX タスクフォースリーダー、 EX タスクフォースリーダー
2022年4月	社長
2022年6月	代表取締役 社長（現職）

# MCSV Creation Forum

本日のプログラム

会社概要

---

三菱商事の強み

---

三菱商事の成長戦略

---

業績／株主還元

---

エンゲージメント強化／株式分割

---

# MCSV Creation Forum

本日のプログラム

会社概要

---

三菱商事の強み

---

三菱商事の成長戦略

---

業績／株主還元

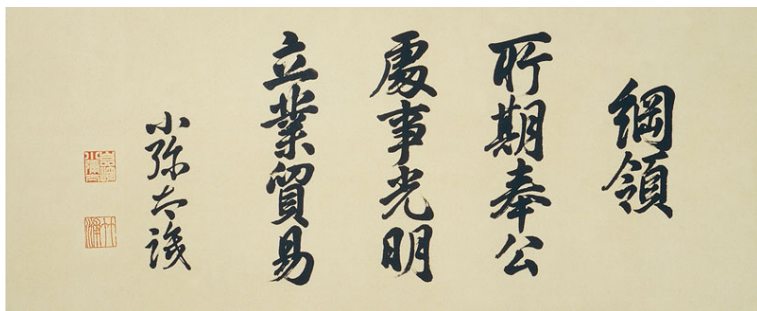
---

エンゲージメント強化／株式分割

---

## 三菱商事の企業理念

「三綱領」は、1920年の三菱第四代社長岩崎小彌太の訓諭を基に、1934年に旧三菱商事の行動指針として制定された。旧三菱商事は1947年に解散したが、三菱商事においてもこの三綱領は企業理念となり、その精神は役職員一人ひとりの心の中に息づいている。



所期奉公

しよ き ほう こう

事業を通じ、物心共に豊かな社会の実現に努力すると同時に、かけがえのない地球環境の維持にも貢献する。

処事光明

しよ じ こう めい

公明正大で品格のある行動を旨とし、活動の公開性、透明性を堅持する。

立業貿易

りつ ぎょう ぼう えき

全世界的、宇宙的視野に立脚した事業展開を図る。

(2001年1月、三菱グループ各社で構成される三菱金曜会にて申し合わされた現代解釈)

# 数字で見る三菱商事

## 名称・設立



三菱商事株式会社  
(証券コード：8058)  
1954年 7月1日

2023年11月末時点

## グローバル ネットワーク



従業員数：約8万人  
拠点：国内及び海外  
約90カ国に約120拠点

2023年3月末時点

## 2022年度 業績



連結純利益 11,807億円  
営業収益キャッシュフロー 1.3兆円  
ROE 15.8%

## 財務健全性



S&P A (Stable)  
Moody's A2 (Stable)

2023年11月末時点

## 時価総額



約10兆円

2023年11月末時点

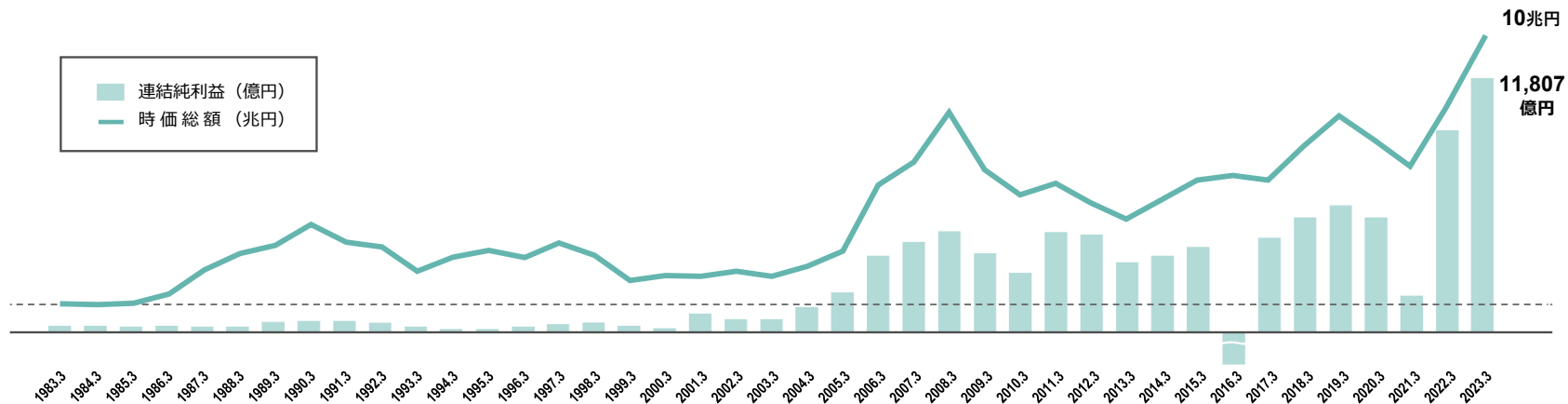
## 2023年度 株主還元



年間配当金 210円/株 (株式分割前)  
自己株式取得 1,000億円  
(総還元性向 40%程度を目標)

# 三菱商事の成長の歴史

三菱商事は環境変化に応じて柔軟に業態を変化させ、価値創造に取り組んできた。





# MCSV Creation Forum

本日のプログラム

会社概要

---

三菱商事の強み

---

三菱商事の成長戦略

---

業績／株主還元

---

エンゲージメント強化／株式分割

---

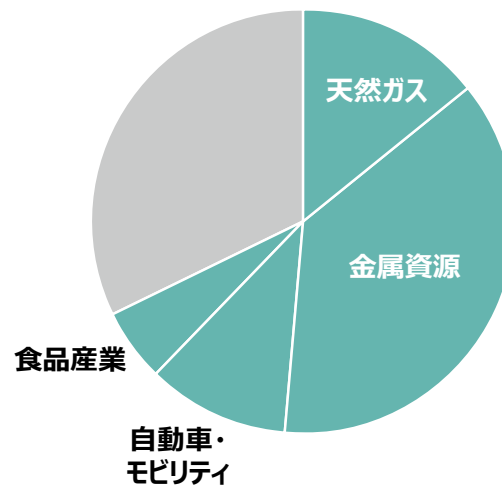
## 三菱商事の事業展開

三菱商事のビジネスモデルは変化してきたが、当社ビジネスを支える“強み”は不変。強みを活かして、当社は社会の変化するニーズを捉え、自らの資源をビジネスポートフォリオとバリューチェーンの中で再分配してきた。その結果、三菱商事の中でも際立って強いビジネスがいくつも誕生している。



2022年度連結当期純利益

11,807 億円

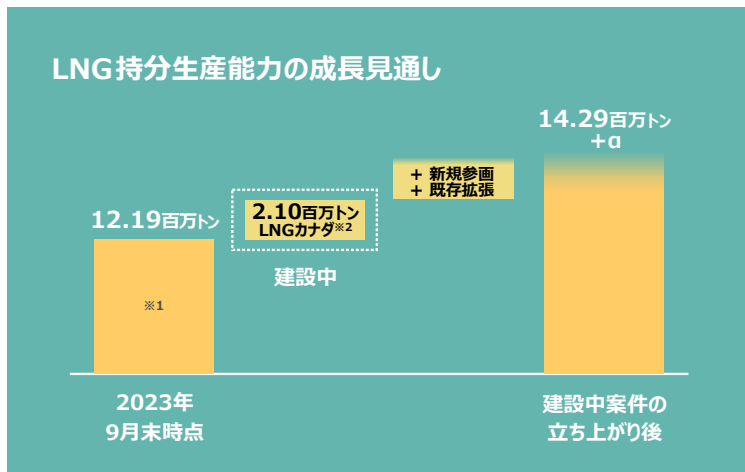


# 天然ガス事業

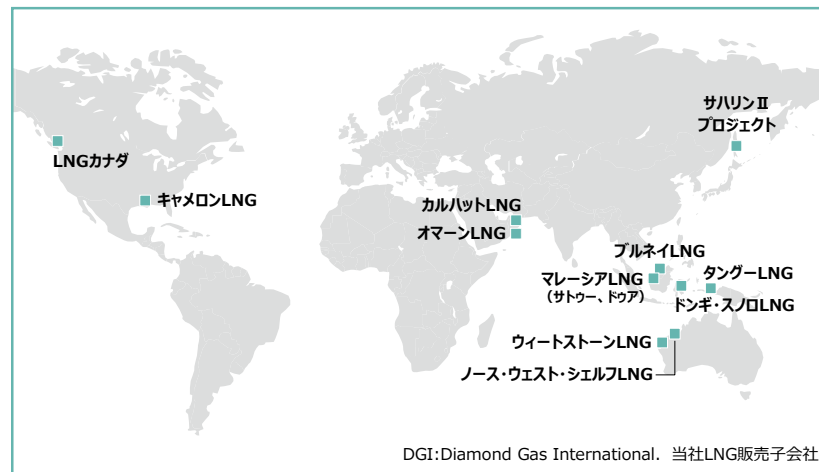


1969年、三菱商事は輸入代理業務を通じて日本へ初めて液化天然ガス（LNG）を導入。1970年以降、世界各地で天然ガス液化事業・上流ガス開発事業・LNG船舶事業へとバリューチェーンを拡大し、増加するエネルギー需要への安定供給に貢献。また、昨今ではカーボンニュートラル社会の実現に向けて、水素・アンモニアを軸にした次世代エネルギーサプライチェーン構築に向けて事業開発を推進中。

## アジア民間企業における最大のLNGプレイヤー 8カ国に12のLNG資産を保有\*。 \* 現在生産中・建設中の施設



※1 キャメロンLNG事業は当社がキャメロンLNG社に液化加工委託する数量を採用。  
※2 LNGカナダ事業は当社が引き取るLNG数量を採用。



## 金属資源事業



石炭・鉄鉱石などの鉄鋼原料、銅・アルミなど非鉄金属の各分野でトレーディングや資源投資などの事業開発を通じ、事業環境の変化や、その時々々の社会やステークホルダーからの要請を捉え、成長してきた。

電化社会の潮流を捉え、銅に加えてアルミ・リチウム・ニッケルなど電化に必須となる金属資源への取り組みも強化し、原料の安定調達観点から社会課題の解決を目指す。

### BMA<sup>※1</sup>原料炭事業（オーストラリア）

- 7つの炭坑で年間約60百万トンの原料炭を生産し、海上貿易量の約3割のシェアを持つ世界最大規模の原料炭事業<sup>※2</sup>
- 炭鉱、鉄道・港を一体保有し、高炉製鉄法の低炭素化に必須である高品質な原料炭（製鉄用の石炭）の安定供給責任を果たしている
- 山命は60年以上を見込む

※1 三菱商事（50%）BHP（50%）のジョイントベンチャー

※2 2023年10月、当社はBMA原料炭事業を通じて50%保有する7つの炭坑のうち2つについて、2024年度中に全権益を売却予定であることを公表済。



### ケジャベコ銅鉱山（ペルー）

- ペルー共和国南部に位置する大規模銅鉱山で、約17億トンの資源量及び約36年の山命を見込み、高いコスト競争力を有する
- Anglo American社と共に開発を進め、2022年に銅精鉱生産を開始
- 再生可能エネルギーを中心とした電化の進展やEVの普及等、カーボンニュートラル社会の実現に不可欠な資源である銅の確保と安定供給に取り組んでいる





## 自動車・モビリティ事業

自動車メーカー（日本）の完成車販売ビジネスをASEAN地域でスタート。タイ・インドネシアでは、生産・卸売面で事業基盤を拡充し、販売金融、小売、アフターサービス、中古車、ITシステム等の周辺事業にもビジネスを広げてバリューチェーンを拡大。

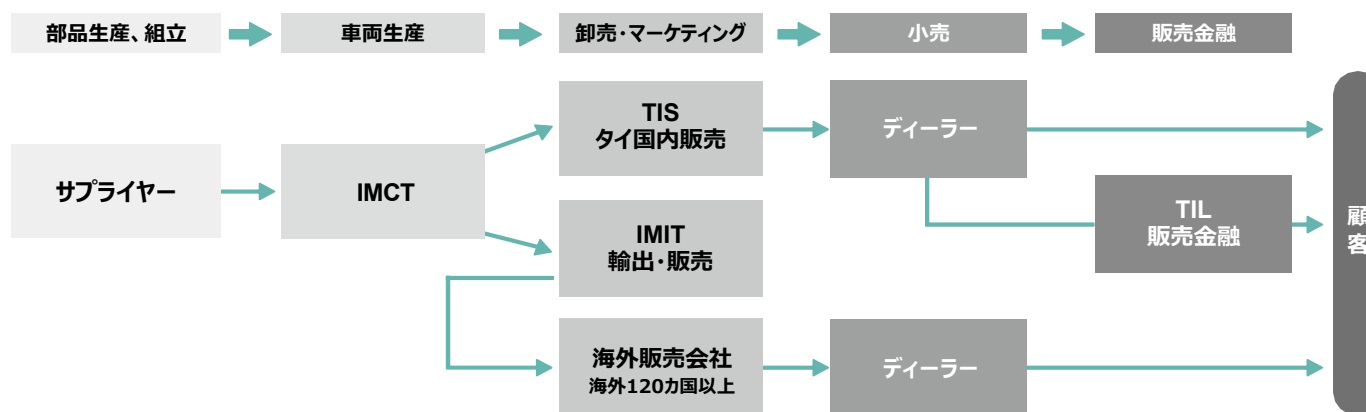
その後、同地域で築き上げたバリューチェーンを他国に横展開。

長年にわたる三菱自動車工業(株)、いすゞ自動車(株)、三菱ふそうトラック・バス(株)、TOYO TIRE(株)との強固なパートナーシップを保有している。

### タイ いすゞ事業

- タイにおける商用トラック／ピックアップトラックの市場シェアNo.1（夫々のシェアは50%/45%）
- タイ国内に約300のディーラー網を有しており、それを基にした顧客データを活用しマーケットインの商品を企画・販売
- 海外約120か国へのピックアップトラック輸出事業も展開

### いすゞ事業バリューチェーン



## 食品産業事業



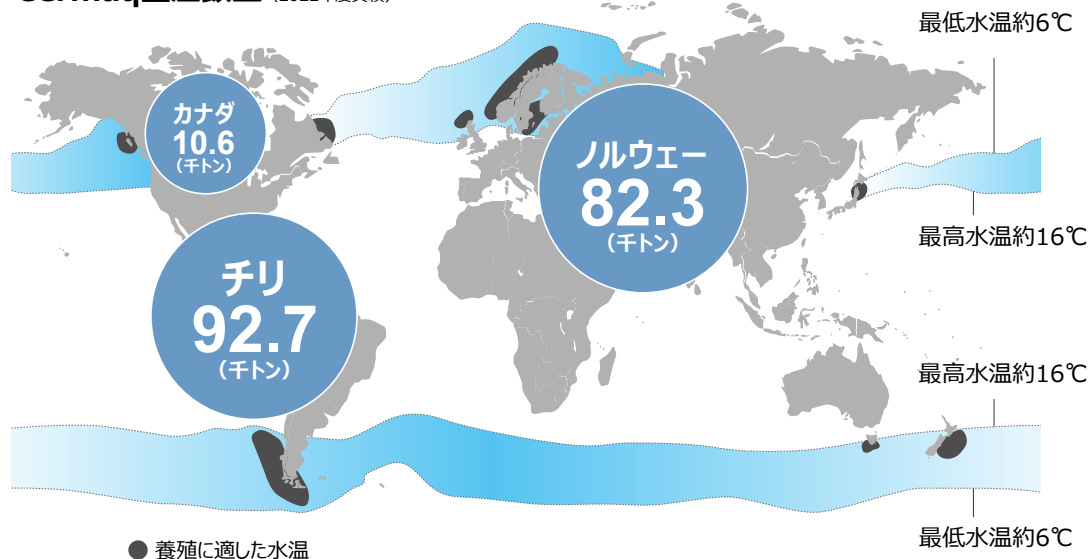
三菱商事が伝統的に強みを発揮している分野の一つが水産事業であり、中でも注力しているのが鮭鱒事業。鮭缶詰の輸出に始まり、原魚の輸入、水産加工会社への出資などを通じ事業基盤を拡充。1990年代に鮭鱒需要の拡大と共に養殖鮭鱒の生産量が天然鮭鱒を上回り、その後も需要拡大が見込まれたことから、養殖事業への参入を決断。

2014年にノルウェー、チリ、カナダに養殖拠点を有するCermaqを買収、グローバルな生産・加工・販売のサプライチェーンを構築した。現在同事業は収益の柱となっており、収益基盤の維持・拡大を推し進めている。

### Cermaq (鮭鱒養殖事業)

- 2014年に完全子会社化した鮭鱒養殖会社。年間生産量は約20万トン
- 生産効率化と販売促進の結果、世界有数の収益性を誇る
- 鮭鱒養殖事業は、養殖適地の制約(右図)により供給が限定的である一方、健康的なたんぱく源の需要拡大が見込まれるため、将来的にもタイトな需給が続く見込み

Cermaq生産数量 (2022年度実績)



# MCSV Creation Forum

本日のプログラム

会社概要

---

三菱商事の強み

---

三菱商事の成長戦略

---

業績／株主還元

---

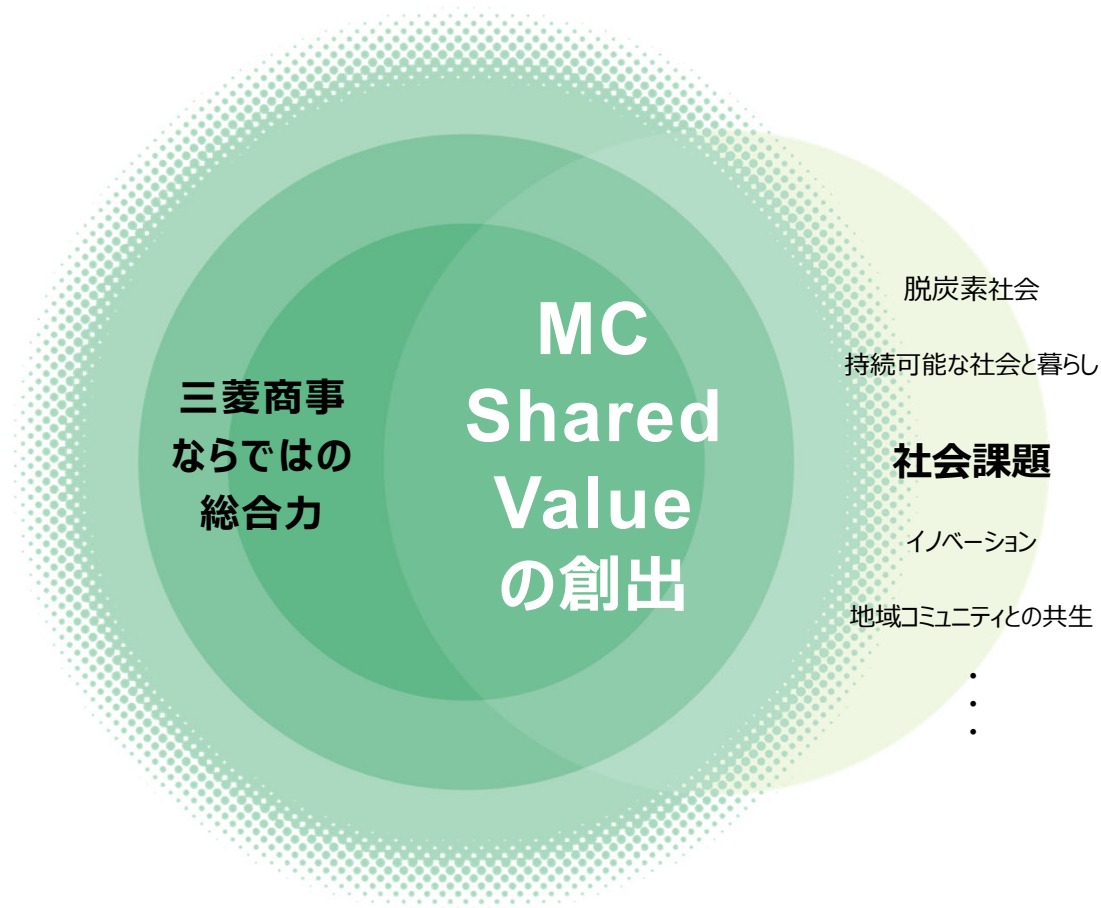
エンゲージメント強化／株式分割

---

## 中期経営戦略2024で目指すこと（MCSVの創出）

MC Shared Value（MCSV）とは：

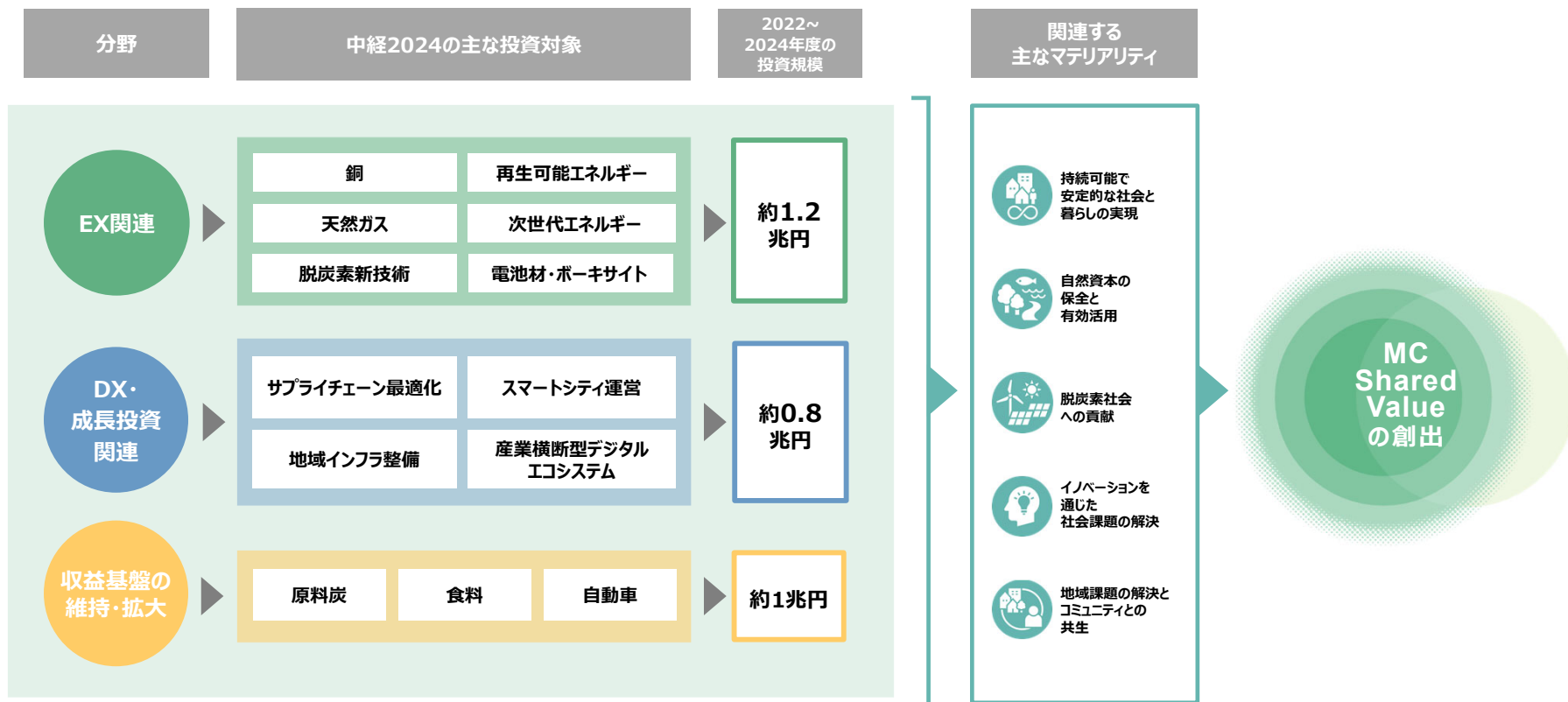
三菱商事グループの総合力強化による社会課題の解決を通じて、継続的に生み出されるスケールのある共創価値





# MCSV創出のための成長戦略（投資計画）

中期経営戦略2024期間中に3兆円規模の投資（うち、エネルギー・トランスフォーメーション（EX）関連1.2兆円、デジタル・トランスフォーメーション（DX）・成長投資関連0.8兆円）を実行し、EX・DX関連分野等の案件を進め、MCSV創出につなげていく。



# MCSV Creation Forum

本日のプログラム

会社概要

---

三菱商事の強み

---

三菱商事の成長戦略

---

業績／株主還元

---

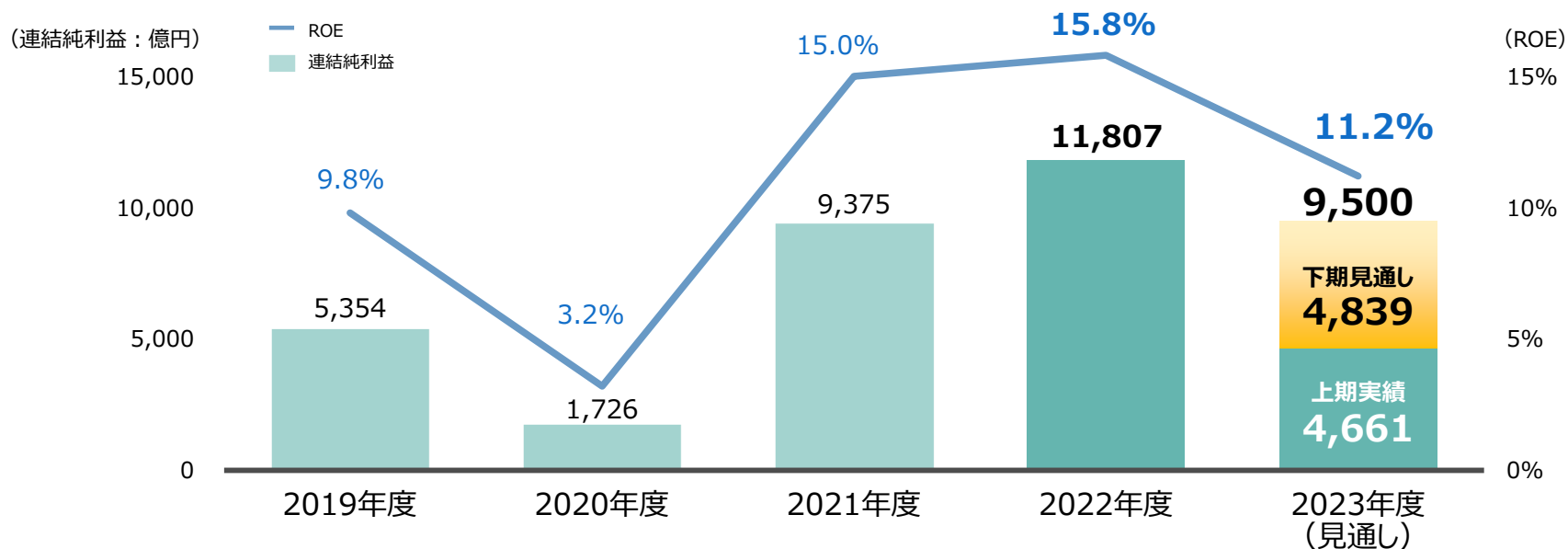
エンゲージメント強化／株式分割

---

## 業績について

### 業績推移

- 2019年度の利益水準は5千億円規模。2020年度には新型コロナウイルスの影響により一旦利益が落ち込んだものの、その後は9千億円を超える水準に達し、2021年度、22年度と2年連続で過去最高益を更新。
- 2023年度上期は、各事業領域にて着実に利益を積み上げた結果4,661億円を計上。通年では9,500億円を見込む。資源価格の高騰や多額の資産売却益を計上した前年度と比較すると減益だが、過去第2位の利益となる見通し。
- 中期経営戦略2024（2022年度～24年度）ではROE二桁水準を目標に掲げている。2022年度実績は15.8%、23年度見通しは11.2%と、当年度も引き続き二桁水準を維持する見込み。



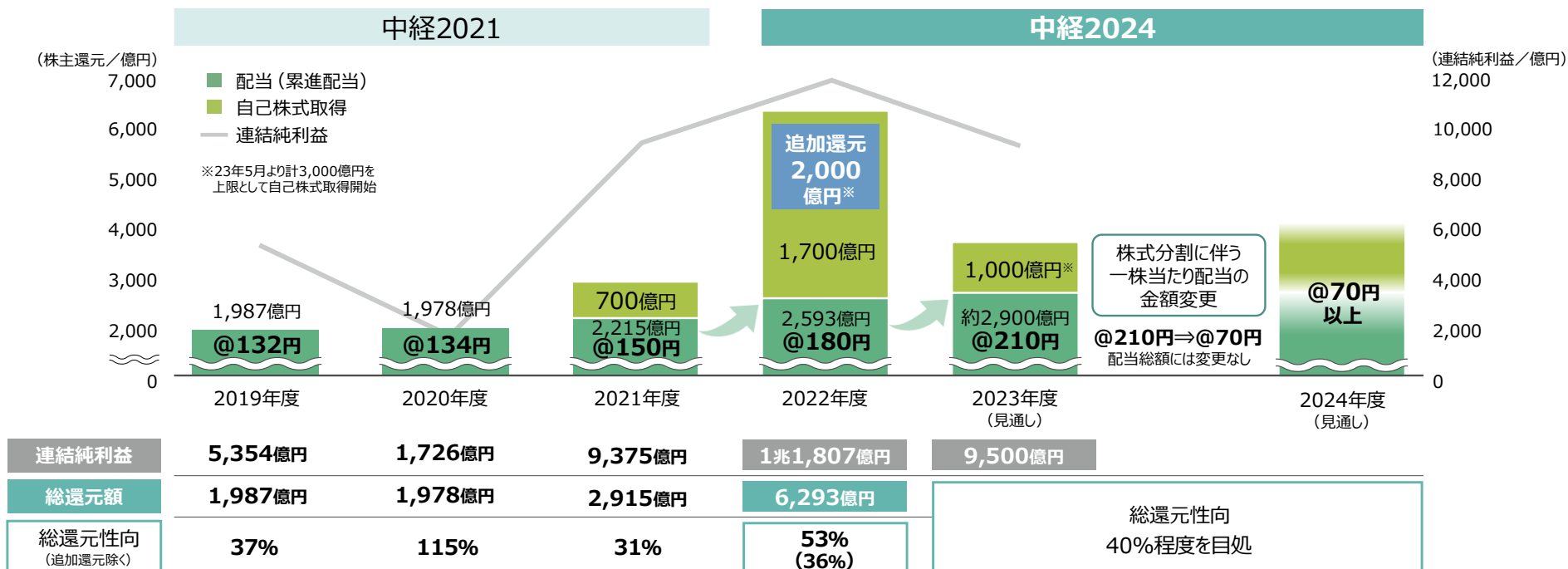
## 株主還元について

## 還元方針

総還元性向40%程度を目処に株主還元を実施。キャッシュフローの動向等も踏まえた追加還元も引き続き検討する。

## 2023年度について

- 配当…累進配当制の下、1株あたり210円への増配を予定（昨年度比+30円の増配）。
- 自己株式取得…業績見通しの達成確度や市場期待などを踏まえ、上限1,000億円の自己株式取得を実施。



# MCSV Creation Forum

本日のプログラム

会社概要

---

三菱商事の強み

---

三菱商事の成長戦略

---

業績／株主還元

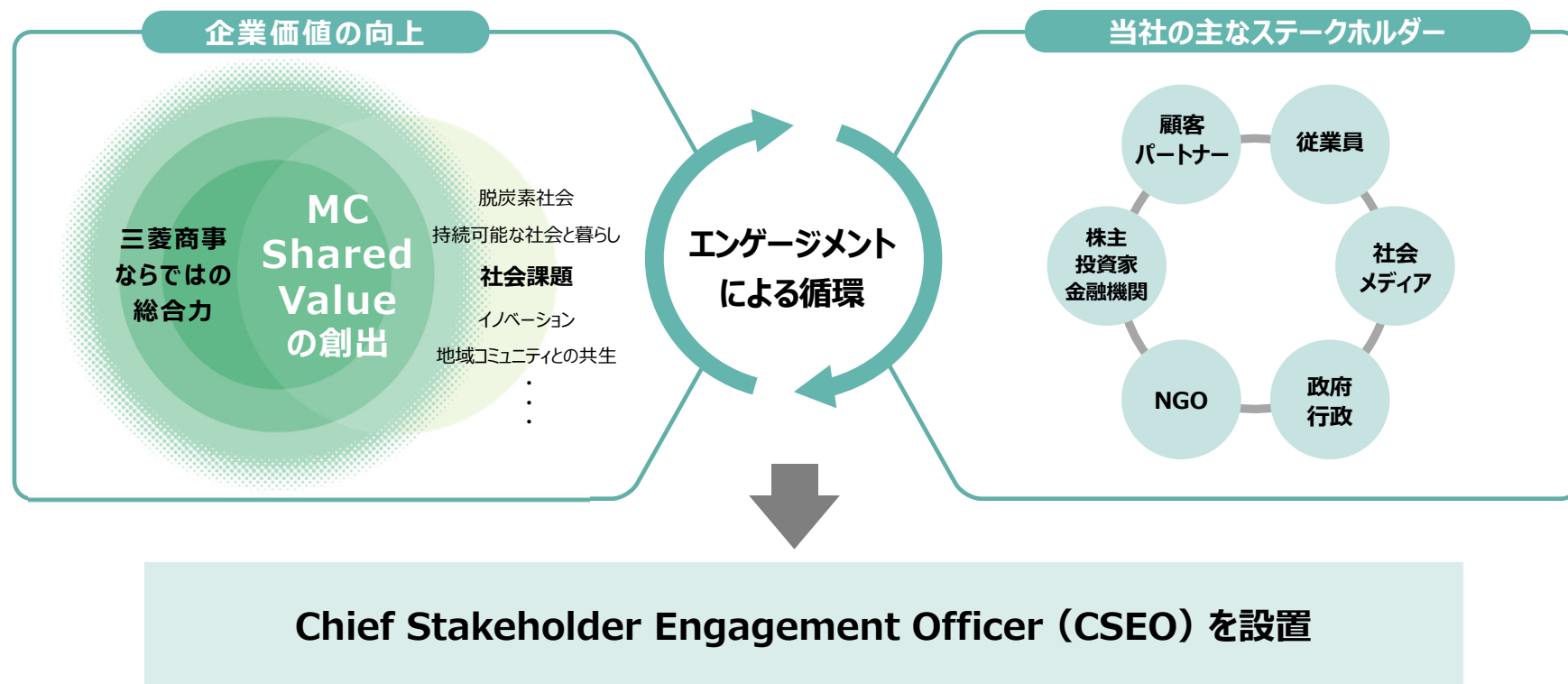
---

エンゲージメント強化／株式分割

---

## ステークホルダーエンゲージメントのさらなる強化

- 様々な国・産業と接地面を有する当社にとって、多様なステークホルダーとの共生・共創は企業価値の向上に不可欠。
- ステークホルダーエンゲージメントによる第三者視点を成長戦略に取り込むことで、MCSV創出による企業価値の向上を実現し、社会とともに持続的な成長を目指す。



## 株式分割について

- 個人投資家の皆様の声に耳を傾け、当社が掲げるステークホルダーエンゲージメント強化の一環として実施。
- 株式の投資単位を引き下げることにより、より投資をしやすい環境を整え、株式の流動性向上と投資家層拡大を図る。

分割数	3分割
-----	-----



最低投資金額が、従来の3分の1に。  
今までより少額で当社株式の購入が可能。

効力発生日	2024年 1月1日
-------	---------------



効力発生日は、「新NISA」の導入と同タイミング。

年間一株当たり 配当 (分割調整後)	70円
--------------------------	-----



2023年度中間配当は株式分割前にお振込み済み。  
期末配当は株式分割後の株式数を基準に実施。

